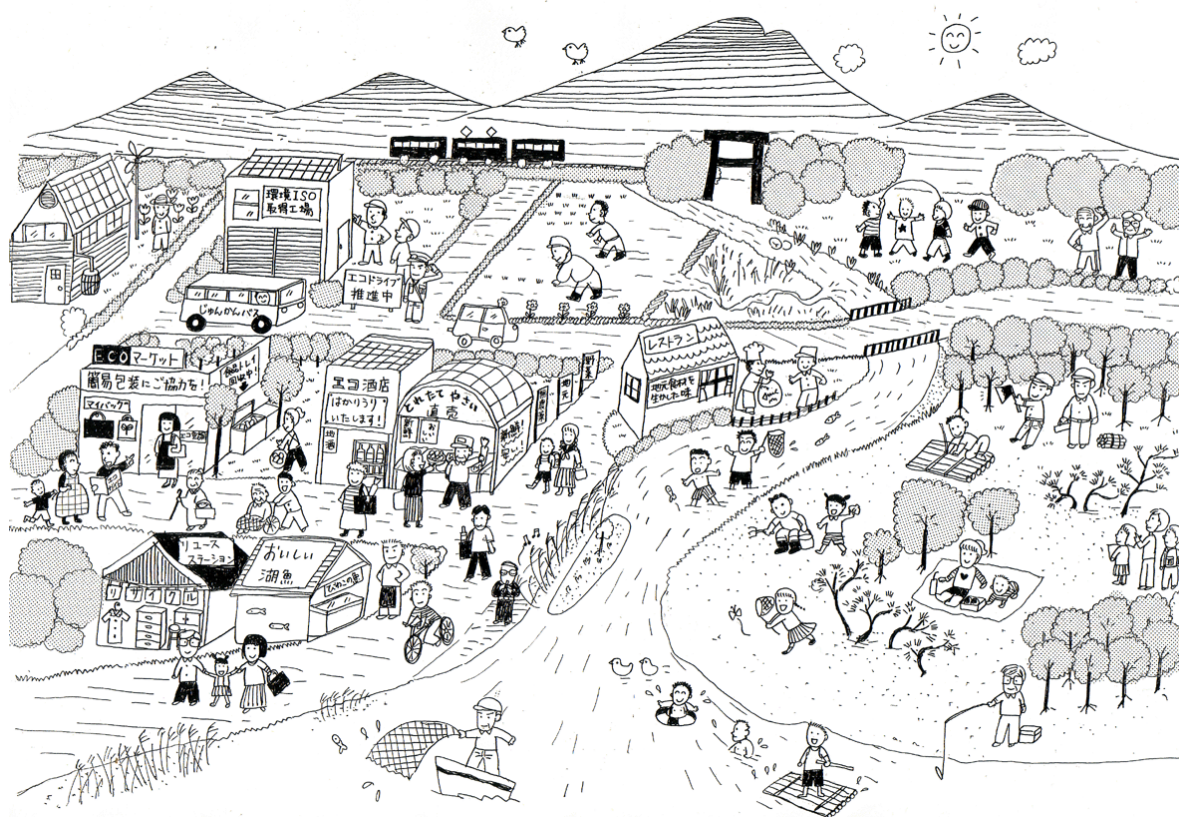


環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」

平成 20 年度 通常総会 議案書



平成 20 年 5 月 10 日(土) 14:00～
コミセンひょうず 大ホール

環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」

平成20年度 通常総会 次第

平成20年5月10日（土）14：00～

コミセンひょうず 大ホール

1、開 会

2、挨 拶

3、御来賓挨拶

4、議 事

第1号議案 平成20年度 事業計画（案）について

第2号議案 平成20年度 予算（案）について

5、そ の 他

6、閉 会

第 1 号議案

平成 2 0 年度 事業計画（案）

各部会の活動方針

平成 1 9 年度の活動を基にし、新たな推進組織としての活動内容の充実とプロジェクトへの参加者の拡充を図ることを目標とする。今年度は昨年度と比較し事業費が拡大しており 3 部会の事業計画に基づき各プロジェクトの実践活動に取り組む。

自然部会は、里山、川、緑地、びわ湖の環境保全を啓発する多様なイベントの開催を企画しており、プロジェクトの趣旨を多くの市民に理解していただけるように努力する。

ごみ・資源部会は、環境負荷の少ない循環型社会の構築に向けた仕組みづくりをめざし、市民参加による 5 つのプロジェクト（省エネ学習・生ごみ資源化・廃食油の利用促進・リユースの促進・エコな店ガイドブック）の取り組みの普及活動を行う。

まち・くらし部会は、一人ひとりが身近な暮らしで実践できる環境に配慮した行動（レジ袋の使用削減、エコドライブ、環境共育）を普及させる仕組みづくりに取り組む。

平成20年度 事業計画（案） 自然部会

1、プロジェクト「「おらが川」人が親しめるきれいな川づくり」

「ヨシ地帯をみんなで増やそう」「びわ湖を身近なものにしよう」

「内湖の復活でびわ湖を守ろう」 予算 375千円

- (1) 家棟川エコ遊覧とびわ湖動力船の運航による川とびわ湖の環境体験の実施
- (2) 川やびわ湖へ多くの人が来るようになると、トイレが必要となるので、家棟川ビオトープ駐車場に簡易トイレを設置する。
- (3) 5月24日（土）エコ遊覧と湖魚食試食、砂浜学習の開催。
- (4) 7月5日（土）滋賀とびわ湖の目指す姿、里川づくりと内湖の講演および市内の河川の環境保全取組み実践者におけるパネルデイズカッションの開催
- (5) 7月末：子供の舟漕ぎ練習会の開催（家棟川にて）
- (6) 8月中旬頃にあやめ浜まつりの開催。湖魚食の昼食、びわ湖の漁船体験、しじみ取り体験等を行う。
- (7) 10月：ホテル学校の開催。ホテルの住める川づくりや繁殖方法について
- (8) 12月：須原地先の湖岸にヨシ群落を再生するため、ヨシ植えイベントを開催する。
- (9) 川や湖に散在している漂着ごみの清掃活動を行う（通年）

2、プロジェクト「環境保全型農業推進計画」

予算 未計上

- (1) 環境に配慮した農産物の生産実践および環境保全型農業の技術講習会の開催

3、プロジェクト「野洲の里山の自然に触れよう、知ろう」

「山の木を活用し、市民の手で野洲の山を守ろう」 予算 130千円

- (1) 里山保全活動（毎月1回実施）間伐・枝打ち、下草刈り・林道整備、竹林整備等
10月：保全作業体験会の開催。場所は小堤又は大篠原の里山
- (2) 里山の自然体験学習会
4月27日（日） 小堤城跡散策と大篠原里山ハイキング
11月 里山自然案内イベント（開催場所は未定）
- (3) 里山保全の作業体験会
10月04日（土） 小堤又は大篠原の里山（定例里山保全作業と合同）
- (4) 里山の自然学習会
6月 希望が丘公園 講師は検討中
9月 小堤又は大篠原の里山 講師は山部会会員

4、プロジェクト「まちなかの緑ボリュームアップ大作戦」

「河畔林の再生」「鎮守の森再生」

予算 110千円

- (1) 旧野洲川北流（市三宅から竹生付近）の河畔林における自然体験イベントの開催
- (2) 駅前の緑景観の創設を目指す取り組みについて検討を行う
- (3) 鎮守の森づくりの検討（地元協議を行い対象とする鎮守の森を設定する）
- (4) 日野川、吉川緑地での河畔林創設を目指す活動（植栽や自然学習会等のイベントの開催）
- (5) 公共施設の緑化推進について、各管理者と協議を行い緑化の取り組みを推進する仕組みづくりを検討する。

平成 20 年度 事業計画（案） ごみ・資源部会

1. プロジェクト 「みんなで進める環境学習」 予算 87 千円

- (1) 市民の環境学習への理解を深めるため、推進会議が発行する「ニュースレター」等を活用して、環境問題に関する情報提供を行う。
- (2) 自治会を対象に、学区または連合会単位で、環境学習会を開催する。
- (3) 学習会には、県の地球温暖化防止活動推進委員の協力を要請する。

2. プロジェクト 「生ごみ資源化システムづくり」 予算 91 千円

- (1) 手軽な生ごみ堆肥化の方式として「好気性微生物」を用いた土嚢方式の試験を行い、必要に応じ講演・実演会を開催する。
- (2) 市販の手動式および省電力型の家庭用生ごみ処理機の試験を行い、試験結果をまとめ、「ニュースレター」等を活用し情報提供を行う。
- (3) 小規模事業者向けの生ごみ処理機の調査を行う。

3. プロジェクト 「天ぷら油を捨てずにエネルギー（BDF）化しよう」 予算 29 千円

- (1) アンケート調査の結果を参考に、回収方法（場所、集め方、容器など）の検討を行う。
- (2) 市のエコライフ車など BDF 燃料で走っている車に「廃食油を利用した燃料で走る車」であることを表示し、市民の廃食油回収への参加意識を高める。また各イベントに BDF 車のデモを行い、廃食油の有効活用と BDF 利用推進について啓発を行う。
- (3) 使用済天ぷら油に関する事業者へのアンケート調査を行い、事業者からの回収可能性とその数量を調査する。

4. プロジェクト 「お得で楽しいリユースステーションをつくろう」 予算 27 千円

- (1) クリーンセンターに搬入される粗大ゴミについて、3、4 月期の調査を行い、昨年実施した 8、9 月期の比較する。
- (2) 近隣の公設リサイクルセンターの運営状況を調査する。
- (3) 市内遊休施設を利用したリユースステーションの試験運営に向け、具体的な運営方法について検討する。
- (4) 自転車、家具など修理できるリユース応援員の募集を推進する。

5. プロジェクト 「『こんなエコ店あうよ！』ガイドブック作成」 予算 40 千円

- (1) エコな店の定義、また取り組についての評価基準づくりの検討を行い、エコな店の認定基準を設定する。
- (2) 定義・基準に基づく小売店の募集・選定方法の検討を行い、各店の取り組み調査を行う。
- (3) 調査結果を基に、エコな店のガイドブック作成に取り組む。

平成 20 年度 事業計画（案） まち・くらし部会

1. プロジェクト 「ごみを出さない売り方・買い方が広がるまち」 予算 200 千円

(1) 先進地視察研修（6 月）

レジ袋の無料配布を一斉中止した三重県伊勢市を視察し、取り組みの経過や課題などを学ぶことで、野洲市でのレジ袋使用削減に向けた活動につなげる。

(2) ヒアリング調査（随時）

野洲市におけるレジ袋の現状を目に見える形で把握するため、事業所に年間のレジ袋使用量を聞き取り調査する。

(3) キャンペーン（9～10 月）

市内のスーパー店頭など数箇所において、消費者に対してごみの出ない買い方であるマイバックの持参およびレジ袋の使用削減を呼びかける。

(4) フォーラム（2 月～3 月）

1 年の活動の成果をまとめ、広く市民・事業者に活動を知ってもらい、また次年度の活動につながるようフォーラムを開催する。

2. プロジェクト 「「環境共育支援ネットやす」の設立と運営」 予算 95 千円

(1) 環境教育（共育）の情報共有

市内の学校、園、公民館やコミセンなどで、どのような環境教育（共育）が行われているのかヒアリング調査を行う。また各プロジェクトで行われている取り組みをまとめ、「ニュースレター」等を活用して情報発信する。

(2) 課題・ニーズの明確化

野洲市の環境の現状を知ってもらうため、教員・保育士を対象として現場での環境学習プログラムを体験してもらう。その後、環境学習に対する課題やニーズについて話し合う。

3. プロジェクト 「一人ひとりが自動車社会を見直す「エコドライブ活動」

予算 30 千円

(1) エコドライブ活動プロジェクトチームの発足

昨年実施したエコドライブ教習会の参加者をはじめとして、エコドライブの普及に取り組んでいただける方をニュースレター等で募集し、エコドライブ活動プロジェクトチームを発足する。

(2) エコドライブ講習会の実施

上記のエコドライブ教習会参加者を講師として、市内コミセン等で講習会を実施する。

第2号議案

平成20年度 予算(案)

環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」

(収入)

科 目	本年度予算額	備 考
会 費	68,000	個人 @ 500×50 団体 @1000×23 企業 @2000×10
補助金	1,217,000	市補助金
寄付金	100,000	財団法人 野洲市文化スポーツ振興事業団
雑入	6,000	野洲市環境基本計画推進組織より繰入 5,872円 預金利子等 128円
合 計	1,391,000	

(支出)

科 目	本年度予算額	備 考
事業費	1,214,000	自然部会 615,000円 ごみ・資源部会 274,000円 まち・くらし部会 325,000円
事務費	70,000	消耗品 3,000円 通信運搬 56,000円 費用弁償 11,000円
予備費	107,000	
合 計	1,391,000	